

富山大学 No.95 学園ニュース

特集 「ボランティア」



表紙の作者の紹介



教育学部小学校教員養成課程図画工作科
デザイン専攻4年の中本久美子です。

新しい年がスタートしました。
自分なりの目標をもってワンランク
上の自分をめざしましょう。
自分に自信をもつことが心の余裕と
なり、他人にやさしくなることがで
きます。

学園ニュース

No.95 CONTENTS

富山大学を卒業・修了する諸君へ

学生部長 能登谷 久 公 … 2

退官教官雑感

パソコン/CD-ROM のすすめ

離愁 押韻ソネット

Lebewohl

定年退官に際して

退官にあたって

経済学部・経営法学科・経済学研究科・新校舎の誕生と共に

退官にあたって

二十年の沈滞

回想

不易流行を想う

人文学部 教授 藤 井 一 行 … 3

人文学部 教授 勝 野 良 一 … 3

人文学部 教授 奥 貫 晴 弘 … 4

教育学部 教授 中 川 眸 … 4

経済学部 教授 伊 藤 格 夫 … 5

経済学部 教授 吉 原 節 夫 … 5

理学部 教授 塩 谷 俊 作 … 6

理学部 教授 堀 越 叡 … 6

理学部 教授 水 谷 義 彦 … 7

工学部 教授 池 田 長 康 … 7

特集 「ボランティア」

介護等体験の実施にあたって

善意でボランティアができるか

ボランティア活動状況

教育学部 教授 宗 孝 文 … 8

経済学部 講師 吉 田 竜 司 … 9

… 10

わたしの研究室

コース選択 - 鈴木君の場合 -

国語科研究室の紹介

「とことん議論します」 - 伊藤(司)ゼミ -

吉田ゼミの紹介

電気システム工学Ⅱ講座(エネルギー変換工学講座)

人文学部国際文化学科 2年 高 井 愉美日 … 11

教育学部国語科学生会会長 3年 鎌 田 康 平 … 12

経済学部経営法学科 3年 緒 方 泰 宏 … 13

理学研究科数学専攻 1年 松 村 一 央 … 14

工学研究科電子情報工学専攻 1年 湯 野 康 治 … 15

留学生コーナー

駅伝に参加して

私の宝物

教育学部 研究生 符 伝 俊 … 16

経済学部 特別聴講生 朴 世 允 … 17

トピックス

附属図書館施設めぐり

環日本海地域の学術研究の拠点をめざして

附属図書館情報サービス課長 重 里 信 一 … 18

環日本海地域研究センター長 中 藤 康 俊 … 20

学生部だより

平成9年度 前期・後期授業料免除について …… 21

保健管理センターだより

エイズは蔓延しつつある

保健管理センター所長 中 村 剛 … 22



富山大学を卒業・修了する諸君へ

学生部長 能登谷 久 公

此の度、蛍雪の功成って富山大学を卒業・修了される皆さんへ心から御慶び申し上げます。

メディアなどでご周知の如く、当今の世上は、55年体制の崩壊から始まった政治体制の混乱が依然として収束する兆しを見せず、証券不祥事から始まった金融不安は大手都市銀行を含む各種金融機関の倒産を含めて、未曾有のバブルに踊らされた日本型経済システムの破綻とも云われ、その先行きは極めて不安定な状態を示しております。また、世界の金融マフィアによる一連の“アジア売り”に併せて、円相場は異常に低めに推移しており、これも金融不安を加速する要因となっております。

また、過剰な生産とその廃棄はご承知のように大気中の炭酸ガス増加による地球の温暖化であり、ダイオキシンに代表される環境ホルモンの増加による生態系の破壊が人口に膾炙されております。

諸君はこのように万事が不透明な時期に学園を巣立つ巡り合わせになったわけであります。諸君の中には自分の不運を嘆く人もあるかも知れませんが、私がここで若い諸君に申し上げたいのは、諸君がこれまで何らの疑問もなく過ごしてきた消費意識の改革であろうと云うことでもあります。

これは後世の史家の判断に待たねばなりません。諸君は一般的に云って、欲しいものは殆んど手に入り、有り余るものに囲まれて育った、いわゆる“抑制と断念”を知らない時代の終期の世代と考えられます。

私を含めた諸君の両親の世代の日本人が物心ついた頃は、戦後民主主義が軌道に乗り始めた頃で

あり、私達日本人は第二次大戦後の窮乏からの脱出を希求し、当時全盛を極めたアメリカ映画に見られた豊かな生活に限りない憧れを持ちました。

1960年代の所得倍増計画に活性化された製造業からは、魅力的な広告によって新製品が大量に輩出され、便利で快適な生活を予想される情報の氾濫に対して私達は殆ど免疫力を持たず、その流れに身を任せていたのが実情である。そうした背景の中で生まれ、物余りの環境に育ったであろう諸君の多くは、両親が共働きに出る淋しさの代償として、希求するものは殆どが手に入り、それを抑制される事は僅かであったと考えられます。また、未成熟な戦後民主主義は、人間がそのスタートで付与される切符が全線乗り放題のものではなく、きわめて限られた選択肢であることの教育を、平等教育の美名のもとに放棄してきました。

このように、抑制と断念に関する意識や学習を受けなかった限りにおいて諸君も時代の犠牲者として位置付けられると考えます。

諸君はこれから社会に出て、それぞれの職場あるいは仕事によって得た収入の範囲での生活を余儀なくされます。他方、これまでの消費の惰性が続くとすると、諸君が希求するものは更に増加する事になり、その先に見えるのは自己破産やカード破産であります。

諸君に期待するのは、消費のための消費者ではなく、氾濫する情報の中から真に必要なものを選択する賢明な生活者になって頂く事であります。

最後に諸君のご健康とご発展を祈念して擲筆と致します。

パソコン／CD-ROM のすすめ



人文学部 教授

藤井 一行

ロシア語教師としておよそ30年。新設人文学部に新設のロシア語ロシア文学コースに迎えられて20年。コース創設以来、微力ながら一貫して教育環境の整備に努力してきたつもりだ。ロシア人の教官・学生の招聘，ロシアへの学生派遣，日口の教官・学生の短期交換；パソコン導入，インターネット（その効用については去年本誌で触れた）…等々。しかし、思い残すことは多い。

日本では多くの大学の施設面での研究・教育環境の大きな変化にもかかわらず、外国語教育の状況は旧態依然に見える。少なくともロシア語教育にかんしてはそう言わざるをえない。こと教科書にかんするかぎり見るべき進歩はほとんどない。

ロシア人が音声を吹き込んだテープをせいぜい別売で添えるというパターンのくりかえしである。

ロシア語教師の仕事に別れをつけるにあたってここで訴えておきたいことは、CD-ROMの活用についてである。ロシア語学習にかんするかぎり、私たちはいまロシアで開発された実に多くのソフトを活用できる状況にある。文字データだけでなく、音声、画像、それどころかビデオなどのデータにまで好きなようにアクセスできるCD-ROMは教師にとっても学習者にとっても大いに魅力的な武器である。

学生諸君には専用のパソコンを購入することをすすめる。たかだか20万円ほど投資すれば、絶対に後悔のない勉学生活が送れる。授業では得られないものが無限に得られる。外国語学習に限ったことではない。

私の退官後の夢は、日本の学習者向けに独自のCD-ROM版ロシア語教科書を開発することだ。（1998.01.09記）

離愁

押韻ソネット



人文学部 教授

勝野 良一

雪空を切り裂く 鳥影の鋭角
 一陣の風に似て 射るは私の眼？
 歳月を埋めた砂洲を蹴るは 悔いのため
 きょう 出立の空に かの夏を描く
 雪代の山脈に ままよ背を向けて
 去る！ あすからは異郷の海のほとりに
 石を抱きしめ 見なれぬ貝の輪廻に
 託すのは何？ せめて蜃気楼よ 起て
 雪解け 帰雁の季節 私も北へ
 ただひたむきに歩もうか 喘ぎに耐え
 しかし それも所詮は道化の一こま？
 雪消える髪に 友の言葉はつもり
 私のかき鳴らしたアルペジオのこり
 とまれ別れの鐘に春を聴こう 今

Lebewohl



人文学部 教授
奥貫晴弘

正門から真っ直ぐにのびているユリの木の並木道は、大学キャンパス内でもすてきなものの一つです。あれらの木々は、私が大学に赴任した年に植えられたもので、当時は腕の太さほどの、丈も私の背丈くらいのほそほそとした木々でした。

そんな木々たちが、爾来、幾多の風霜に耐えながら、人間たちの日々の往来を、学園紛争時には連日のように繰り返されるデモの波を、次第に増えてきた自動車やバイクの運行を、建物のとりこわしや新築を、——つまりは私たち人間の演ずる多くの喜劇を無言で眺めながら次第に成長し、いまあれ程に大きくなり、すっきりと天を突いて立っているわけです。偉いやつらです。

いや、木に感心していて、うっかり、大事なこと、人間への感謝を忘れるところでした。目立った成長がなかったヤクザな私が、かくも長い春秋を枯死することなく今日に至れたのは、優しい教官の皆様、親切な事務官の皆様、勤勉な学生諸君——結局は、《すばらしきもの人間》のお陰なのでした。その方たちの姿が、いま、一つ一つ並木道の奥へと次第に小さくなって行きます。その後ろ姿に、私は深々と頭を下げるばかりです。

定年退官に際して



教育学部 教授
中川 眸

この度、長くして短い、自らの人生の里程標に到達することになりました。昭和40年より33年間、教育学部において研究と教育に携わらせていただいたことを感謝致します。この間、教職員、事務職員の皆さんそして大学に関係する多くの方々にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。また学生の皆さんとは共に真理を目指して努力してきた喜びを分かち合いたいと思っております。

思えば、昭和40年代中頃の学園紛争は学生との対立抗争に明け暮れ苦悩の時でありました。根本的問題の解決に私自身は力を出しきることができませんでした。あるとき講義を妨害されて、学生が退室してゆき最後は数人になりました。それでも100分間の講義をやり通したことを、困窮したときにはいつも思い出してきました。しかしこのような緊張ばかりではなく安らぎを覚えた時もありました。

正門に入って最奥に見える図書館です。昔からよく書庫に入りましたが改造後は閲覧室も広く、しかも夜間そして土・日曜日の午後も開かれています。土・日の開館（12時30分）を入口で待っている学生の顔は全くすがすがしいものです。大学はよき所かなと思いました。今後も健康が与えられるならば、やり残した仕事をこの図書館を活用させていただいて全うし、人生の次の里程標に到達したいものと願っています。

退官にあたって



経済学部 教授
伊藤 格夫

富山大学に赴任して8年間があったという間に経ってしまいました。それまでずっと民間企業で仕事をしてきたため、大学という組織の中で、ともすればとまどいがちであったのを、多くの先生方や事務担当の方々から助力をいただきながら努めることができました。また、明るく若い学生諸君と共に学ぶことができたのも感謝しています。

時あたかも、われわれの社会は、日本の歴史上、二百数十年来とも思われる一大変動の時期にさしかかっています。これからの時代にふさわしい新しい大学の役割も、今までとは画期的に異なったものが要請されることは間違いないでしょう。

振り返ると、私などが生まれ育ってきた今までの時代は、主として経済的物量的な面での成長につぐ成長を続けてきた時代でした。いよいよこれからは文化的情動的な面の成長が主力と思われる時代です。

どうか、これからの時代をしっかりと見据えた基盤技術醸成と諸活動へのご努力ご精進を続けられますことを期待しながら退官のご挨拶とさせていただきます。

経済学部・経営法学科・経済学研究科・新校舎の誕生と共に



経済学部 教授
吉原 節夫

富大文理学部経済学科から経済学部が昇格・独立したのは、私の学生のときだった。悲願成就祝賀の諸行事（公開講演会・街頭録音放送・県庁前広場でのファイアストーム・高岡市街堤灯行列等々）が学生主催で企画・実施されたとき、私は実行委員会の総務担当幹事を務め、乞われて教授会で説明したこともあった。

民法ゼミから九大大学院法学研究科私法学専攻に進学し、2年の秋に、修士修了後の4月に経済学部の民法担当予定者として助手採用する旨の内定通知をいただいた。そのため、3月に大学院恩師の舟橋諄一先生から助手にとの有難いお話を受けたが、丁重にお断りして先約の経済学部に32年4月就任した。助教授の頃から相当数の大学の転学要請を受けたけれども、母校一筋の精勤となった。

学部の50周年と60周年との記念事業に深く関り、激しい大学紛争と取り組み、国立大学唯一の経営法学科の原案作りに当たった。大学院経済学研究科の新設・新校舎の建設・70周年記念事業には学部長として努力し、その達成に欣喜した。これまでご支援・協力をいただいた方々に、改めて深謝申し上げたい。

他方、苦言を呈したいこともある。最近、中央省庁・一流企業の幹部や地方公務員の不正・違法行為が多発し、彼らの受けた受験教育・大学教育が人間教育軽視の構造になっていることを反映した。文教政策・学長会議・国大協等の現況にも、批判は当然に及ぶ。

最後に、かつてのように富山大学から、文武両道に秀でてバイタリティに富む人材が多く巣立つことを期待して擲筆する。

退官にあたって



理学部 教授
塩谷 俊作

昭和32年に当時本学にあたった薬学部に勤務してから、途中、富山工専に10年ばかりご厄介になった後、昭和54年に再び本学の教養部に、そして平成5年の教養部の廃止に伴って理学部に移るということで、この間約30年母校である富山大学で仕事をさせていただき、この3月に定年を迎えることになりました。

この40年を振り返って、自分が何を成しえたかと問うてみるとよくこれといったものを挙げることもできず、まさに平凡な半生であったといわざるを得ません。合成有機化学、とくに薬理活性を持つことが期待される新規化合物の合成と生理活性や化学的性質について研究を続けてきました。出来るだけ他人のやらない分野をと自分なりに精一杯頑張り、壁を乗り越えてきたつもりですが、ふとまわりを見ると一番後ろの方からよたよたと走りながらようやく定年というゴールにたどりつけそうなところに来たという次第です。

恩師、同僚、事務の方々、学生そして同窓生に支えられて今日まで来られたことを思うとき、これらの方々に何ら報いることのないまま去ることは大変心残りです。富山大学の発展を祈ります。

二十年の沈滞



理学部 教授
堀越 叡

地球科学教室が創立され、私は最初の教官の一人として富山大学に赴任した。1978年のことである。したがって最初の20年を、地球科学教室と共に歩んだ。私は中央通りのすぐ脇で生まれたので、故郷に帰ってきたことになる。仮住いの斜め前の部屋には、神中時代の担任の岩田先生がおられた。

この地球科学教室は特異で、スタッフの選考が助教授にいたるまで地球科学教室の外で行われた。選ばれた教官は国際誌に論文がある教官が半分、資格審査で不合格の教官2人である。欧米では教官の質は引用指数で評価される。これではそれ以前の質である。この半分というのは微妙な水準で、半分为「自分より優秀な教官が来るのは煙たい」と考えると、教室は絶対に良くならない。

以後二十年経ったが、現状は国際誌に論文が一つ以上ある教官が半分、資格審査が通らなかった教官が2人である。この間、国際誌に論文がある教官の何人かが教室を去った。その穴を埋めるのがやっとだったことになる。責任を他人に転化すれば、人事教授会が形骸化していることの現れでもある。最近になって、人事教授会が活性化する兆しがあるのは喜ばしいことである。



回想 不易流行を想う



理学部 教授
水谷 義彦

富山大学には、昭和54年4月、理学部に新しく設置された地球科学科の陸水学講座を担当するために着任した。研究設備はほとんど何も無かったが、思いもかけない方々から様々な援助をいただくことができた。大は科研費で設置した質量分析計から、小は「研究室に何も無いから」と学生達が卒業する時に寄付していつてくれた掛け時計に至るまで。お蔭様で、「何も無くても5年間辛抱すれば、何とか仕事ができるようになる」と、赴任前、或る先輩が励ましてくれた言葉の通りになった。その上、有能なスタッフにも恵まれ、多くの研究を手掛けることができた。そして、それと同時に、数多くの卒業生を社会に送り出すことができた。

平成5年の教育改革では、陸水学講座は理学部に新設された生物圏環境科学科の環境科学計測講座の一部となり、再び、新設学科のスタート時とその後の苦労を経験することになった。しかし、退官1年程前からは何となく身軽に感じられるようになり、それまで何を勝手に背負っていたのかと不思議に思うようになった。

今は、あれこれと思い出すのが楽しい。お世話になった皆様に心から感謝いたします。



工学部 教授
池田 長康

私は芭蕉が好きで、奥の細道などは繰り返し読んだ愛読書の一つである。芭蕉は不易流行ということを俳諧の指導理念としてきた。これは時代が変わっても、普遍的に価値を持ち、しかも、その時代においても評価されるものであるということであろう。確かに、欲張った理念のような気もするが、これは何も俳諧に限った事ではなく、我々、大学での学生の教育にも、研究にも当てはまる素晴らしい普遍的な指導理念ではないかと考えている。学生の教育も専門知識を理解させ、記憶させ、目先の成績を上げさせることだけでは片手落ちであろう。10年、20年の将来を見据えたしっかりした考えを持ち、自らを研鑽して行くことが出来る人間を育てることがより重要であろう。研究もまた同じだと思う。その時代の要請に応える研究は必要であろうが、それを一般化し、時代が過ぎても普遍的な価値をもつ研究に質を高めることが望まれる。私はこの理念に沿って教育や研究をやってきた積りである。多分、気持ちだけが先走った面もあったかも知れない。退官にあたり、大学の皆さんもこの素晴らしい理念を時折思い起こしていただければと思っている。





介護等体験の実施にあたって

教育学部 教授 宗 孝 文

平成10年4月（入学生）から適用される「教育職員免許特例法」（平成9年法律第90号）。小・中学校教員志望者へ福祉施設等での1週間の介護体験を義務づけたものである。ここではその概略と教育上の意味づけを考えてみようと思う。

まずこの法制度の趣旨には、「教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める」ことがうたわれている。つぎに、要求される体験内容としては、「障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者たちとの交流等の体験」、期間は7日間（社会福祉施設等5日間、特殊教育諸学校2日間とすることが望ましい）となっている。

この7日間の割り当て方は、受け入れ側の都合にもより、弾力的である。すなわちこれを連続的に行っても、また長期休業中や土・日曜などに数回に分けてもよく、体験先も1か所でも複数でもよい。また高校時代の体験でも、それが18歳後であれば有効としている。7日間の体験の後、施設又は学校の長が発行する「（介護等の体験に関する）証明書」を受けとり、教員免許状の授与申請の時に、これを提出することになる。なお体験に必要な経費は、学生側の負担とされる。

さてこの「ねらい」であるが、いいかえるとこれは、「自存と共存を学びとる」ということでもある。これは、教育がめざすアルファでありオメガでもあり、教員の資質向上や義務教育の充実という観点からみても、これに異論の余地はない。私たちは何か人の手助けをして、「ありがとう」としみじみ言われた時、自分がやったことの意味（自存）と、それが人に役立ったことを認められたこと（共存）に、大きな喜びを感じるものである。それがボランティア活動などを推進させる動機になっていることも多い。

しかし「教育」といえば、現実には、知識、技術をうまく教えることだと考えられがちだが、それだけではなく、「感動をより多く含む体験」を通して、共に生きる人間としての心を、より豊かに育てる土壌をつくることも大切なことである。専門人、職業人である前に、人間であることが求められているからである。「介護体験」は、義務づけられたものではあっても、やり方によっては、新しい心の芽を育てることにまちがいない。

ただ、実施上、懸念される一つは、相互の信頼関係を欠く場合、「お客さん」になってしまうことである。これでは受入れ側も迷惑であり、訪ねる側も不信感を持ちかねない。そうした中では、入所者のプライバシー等人権が保護されなかったり、施設での生活が混乱し、職員が仕事に専念できないことが考えられる。その結果、せっかくの体験が、期待された結果を生まなかったり、また逆の結果や、さらには否定的な感情を持ち帰るようなことにすらなりかねない。

さらに現在、施設等では増えつつある福祉系実習生のほか、ヘルパー講習、ボランティア希望者等の受入れに精いっぱいのところ、全国で推定約8万人の教員志望者をこれからどう受入れるか、またそうした中での事故等の責任問題、さらに文教、福祉両分野にわたる予算編成のあり方など、かかえる問題は多い。

そのためには、これら問題への諸条件整備のほか、事前指導と事後指導、施設等内での指導、また希望者と受入れ側双方をコーディネートする人などが必要とされる。問題は多いが、趣旨がうまく生かされれば、体験者は、教員である前にまず、人間としての心の豊かさを広げていこうことは期待される。



善意でボランティアができるか

経済学部 講師 吉田 竜 司

昨年1月のナホトカ号沈没による重油流出事故から1年が経った。「ボランティア元年」と言われた'95年の阪神淡路大震災から2年後に起こったこの大事故では、三国町だけでも全国からのべ3万6千人以上のボランティアがかけつけ、漂着重油の回収にあたった。テレビ報道で接する彼らの浜での作業の姿は、冬の日本海の荒海をバックに真っ黒な重油にまみれて壮絶さすら感じさせた。その映像は、まさにボランティアの三大原則、自発性・無償性・利他性、一言でいえば善意そのものを象徴的に表現していたといえる。

このように、阪神淡路大震災以来、ボランティア、特に災害ボランティアに対する世間の評価は、その善意への賞賛か、その裏返しである偽善性に対する危惧かのどちらかに収斂する傾向がある。かくいう私自身、はじめはボランティアという言葉に伴うある種の胡散臭さを感じ、実際に行ってみることでそれをはっきりさせたいと思っていた。

だが、いったんボランティアの中に入ってしまったら、そこは善意や偽善といったレッテルからはみ出す論理によって支配されていることに気づかされた。例えば、ボランティアを賞賛するような報道にたいして、当のボランティア自身のなかには当惑し、違和感を感じていた者も多かったということは、あまり知られていない。実際、2月から3月にかけての数日間、加賀ボランティアセンターで彼らと過ごしたなかで感じたことは、彼らの多くがマスコミ報道を通して彼ら自身に向けられた世間の構えや猜疑心に対してことのほか敏感だったということである。「僕がここでやっていることが外面的には『ボランティア』のそれと同じでも、内面的には全く異なっているということがあります」という発言は、自分たちがやっていること、あるいは自分たちの存在自身が、善意や偽善というレッテルによって回収されてしまうこ

とへのとまどいを表している。現実の彼らは、そのようなレッテルからはみ出す世界、「重油災害ボランティア」という一つの社会的世界、あるいは関係性の中に没入しているのであり、それはもはや善意や偽善といった表層的な価値判断では収まりきらない世界なのである。彼らの内に、汚れた日本海を何とか綺麗にしたい、困っている地元の人役に立ちたいという気持ちが全くなかったかといえはそれは嘘になるだろう。だが、彼らのうちある者は1週間、ときには1カ月以上も本部スタッフボランティアとして滞在し続け、いったん地元に戻った後もすぐにリピーターとして舞い戻ってきたのは、彼らが「重油災害ボランティア」という社会的世界に居続けること自体に大切な意味を見だしていたからなのだ。

善意でボランティアをすることができるかという、おそらくできるだろう。だが、善意「だけ」でボランティアを「し続けること」ができるかというと、それはおそらくあり得ないだろう。つまり、われわれの身の回りのあらゆる社会関係がそうであるように、ボランティアも一つの社会関係であり、そこでは契機の論理と持続の論理がそれぞれ相対的に別個に存在するのである。そして、このような至極当たり前の事実が見えなくなるところに、善意を尺度とする規範的な理解の落とし穴がある。だから、ボランティアを手放しで賞賛することも、偽善的であるとして嗤うことも、「ボランティアという社会的世界」に対する単なる無理解の表明でしかない。そして、災害ボランティアという活動のあり方が日本に根付くためには、このありふれた事実きちんと目を向けることが必要だろう。それはボランティアという関係性に多少なりとも関わる全ての人に必要な視点なのだ。

ボランティア活動状況

〔サークル関係〕

- ヨット部
平成9年1月の日本海沿岸のロシア船籍のタンカー転覆事故に伴う、重油回収作業へのボランティア登録
- 自動車部
富山市交通安全協会五福支部から交通安全推進学生リーダーを委嘱され、「大学正門」及び「市電大学前」付近の交通整理と指導の実施
- 人形劇団ピノキオ
夏期休業期間等における県内幼稚園、小学校等での人形劇の公演
- 児童文化研究会
県下市町村で開催される“ちびっこまつり”への参加及び夏期休業期間における小学校での巡回公演並びに児童館でのクリスマス公演等
- 富大遊ばん会
子どもたちを学内に招いて、紙芝居、竹細工、昔遊びの実施
- 応援団吹奏楽部
県内各地の施設における演奏活動及び小学校での吹奏楽指導
- フィルハーモニー管弦楽団
肢体不自由児等の施設での演奏とアトラクションの伴奏

〔個人関係〕

- ロシア船籍タンカー転覆事故に伴う、重油回収作業への参加
- ハートケア教育相談活動モデル推進事業への参加（学生ボランティアによる巡回・家庭訪問等）
- 養護学校での理科実験講師の補助
- 「97 青少年のための科学の祭典富山大会」の進行補助等
- 少年サッカークラブのコーチ
- 「ストップ地球温暖化キャンペーン」自転車パレードへの参加
- 富山市等主催の「第13回夏休みボランティア活動」への参加（心や身体の遅れが心配される子ども達を自立させる施設での活動）
- 精神薄弱児、肢体不自由児の介護補助等
- 不用物のリサイクル運動への参加
- ボーイスカウト活動への参加



わたしの 研究室

コース選択 —鈴木君の場合—

鈴木君は今年人文学部に入学したばかりの一年生。そろそろどのコースにしようかともっか検討中。なんせ人文学部には20以上もコースがあるし、名前だけじゃよく分からないこともあるよなあと考えながら歩いていると、おやまあ、いつのまにか人文棟（メインストリートと並行して建っている棟）4階のつきあたり、425番の部屋の前に。しおりの案内図には「比較社会論演習室」とあります。

鈴木君：失礼します。あの一、「比較社会論コース」って何をするとところか教えてもらいたいですけど…。

コースの学生（以下コース）：あら、一年生？どうぞ入って、座って。うちのコースに入りたいの？

鈴木君：（そのお姉さんの優しさと美しさに感激しつつ椅子に座る）いいえ、まだ決めてないんですけど、とりあえずどんなことやっているのか知りたいと思って。

コース：うちは基本的に何をやってもいいんだけどね。競馬史が専門の立川先生と、インターネットが専門の筒井先生がいるの。

鈴木君：なんか、先生の専門分野に全然共通性がないように思うんですけど…。何をやっているのかももう少し具体的に教えて下さい。

コース：立川先生は元々日本近代史の先生で、競馬史を通して明治期の社会情勢や文化を考えていこう、という事をしているわ。授業は明治期の日本について当時の外国人が書いた本を訳して読んだり、横浜や函館の居留地に実習に行ったり。筒井先生は国際関係論のドイツ現代史が専門だけど、今はインターネットを使った政治・国際関係分野の教育研究をしてる。ゼミ中心の授業で、ドイツの大学とインターネットを利用した共同セミナーをやったりしたわ。

鈴木君：日本近代史かインターネット関係に興味がある人以外はダメなんですか？

コース：どちらかにしなくてはいけないというわけではないけど、積極的に参加する気持ちと、インターネットに関して最低限の技術を習得しようという心構えは必要ね。でも、自分が本当にやりたいことをやるのが一番大切だと思うわ。えーと、だいたいどんなところか分かった？

鈴木君：はい、なんとなくですけど。どうもありがとうございます。

鈴木君のように訪ねてきたら、美人で優しい上級生がいるかも？



わたしの研究室

国語科研究室の紹介

我が国語科研究室では、主として、国語を専門とする小・中学校の教員を夢見て、学生たちが日々研鑽を行っています。最近の教員採用が厳しい状況にあることもあって、教師だけでなく、公務員や一般就職を志す人も増えてきているようです。授業では、国語学・国文学（近代文学・古典文学）書道・国語科教育などの分野を中心に学びます。3年次の冬には、上記5分野の中から卒業論文専攻分野への所属を、学生の希望に基づいて決定する運びになっています。

研究室所属の学生は現在、学部1年生から大学院修士2年生まで総勢72名を数えます。何とその内のおよそ8割を女性が占めているので、初めのうちは男性は少し肩身の狭い思いをしなければなりません。しかし、そこは優しく気さくなお嬢様ばかりですから、すぐに男女はうちとけ、他のどの学科にも負けない団結力をもつようになっていきます。

3年生は今年の夏、能登半島へキャンプに行ってきました。バーベキューをした時に炭への着火がうまくいかずにハラハラしたことや、焼肉を食べる前に自分たちが蚊に食われて悲鳴を上げたことなど、今でも鮮明によみがえってきます。自宅生も普段と違い、この日ばかりは帰宅時間を気にすることもなく、大いに飲み、大いに食べ、大いに語り合った一晩でした。美しい星空の下、さざ波の打ち寄せる音を聞きながら深めあった友情の絆を、今後も大切にしていきたいと思います。

他の各学年も、それぞれ学生の個性をみごとに調和させる団結力をもって固有の色合いを出しています。上級4年生のみなさんの良識と滋味溢れる姿には敬服します。また2年生・1年生の個性と迫力には侮りがたいものがあります。

私はこの国語科研究室で、主任の安藤修平先生以下、人間味豊かな、学識の深い先生方にご指導いただくことができ、そしてすばらしい仲間たちと学び遊び共に時間を過ごすことができることを、とても幸せに思います。国語科研究室は、私にとって大切な「居場所」であり将来に向けての「起点」なのです。



教育学部国語科学生会会長3年

鎌田康平

わたしの 研究室

「うん」とん議論しますー伊藤(司)ゼミー

今日は、伊藤(司)ゼミの紹介をさせていただきます。まず最初に、私たちのゼミを担当している伊藤司先生を紹介したいと思います。伊藤先生は、とても面倒見が良く、私たちの相談も親身になって聞いてくれます。そして、時には、非常にすばらしいアドバイスを与えてくれます。本当に頼りになる先生です。ですから、いつもゼミは和やかな雰囲気になっています。また、3年生、4年生も個性的な人が多く、みんな、積極的にゼミに参加していると思います。

では次に、私たちゼミでどのようなことをしているのか？、紹介したいと思います。私たちのゼミでは、民法について意欲的に学んでいます。まず、4月から7月までは、先生の助けを得ながら、自分たちでテーマを選んで調べレジュメを作成して発表しました。調べれば調べるほど、謎が深まりました。そして、今(9月から1月)は、様々な判例を2週間かけて、徹底的に議論します。例えば、事前にペットを飼うことを通知しないでマンションを売買する契約を結んだ場合に、事後的に、他の住民がペットを飼うことを止めるように裁判を起こした事例や、ゴミの輪番制(ゴミ捨て場を一定期間ごとに、ある民家の前から違う民家の前に移すもの)に反対する人を訴えて「ゴミを捨てるのを止めろ」という判決を求めた事例など、ゼミで議論しているものはすべて、わたしたちゼミ生が「おもしろい」と思って選んだものばかりです。そして、これらの事例をゼミの中で、原告、被告、陪審員に分かれて、徹底的に議論していきます。実は、この議論がとてもおもしろく、大爆笑することもあります。ときどき、90分の授業時間をオーバーすることもあります。あまり、時間のことは気になりません。授業の最後に陪審員は投票をして、私たちの判決を出します。もちろん、実際の判決では、判決が出ているのですが、「熱い議論」の末に出るゼミの判決は、これとは違う場合もあります。このように、私たちのゼミでは、民法の普通の議論とは違って、楽しく多くのことを学んでいます。以上、簡単ですが、私たちのゼミを紹介させて頂きました。

最後に、私自身はこのゼミに参加したことで、法律への興味が増すと同時に、「もっと、勉強しなければいけないなあ」と感じています。やはり、学問はオクが深い。

もし、興味を持った人は、一度、伊藤(司)ゼミを覗いてみてはいかがでしょうか？



経済学部経営法学科3年

緒方泰宏

わたしの研究室

吉岡ゼミの紹介

僕たちのゼミは、簡単に一言でいうと微分方程式を学んでいます。みなさんは数学が何の役に立つのかと疑問に思うかもしれませんが工学や科学あらゆる分野の基礎となります。数学はとても不可欠なのです。今の時代ではスペースシャトルもうちあがっていますが、それも数学の力なくしてはあがりません。詳しく述べてもむずかしくなるので、ここらへんにして、僕らのゼミのメンバーを紹介します。

今は4年生7人、院生2人とわれらの吉田先生で活動しています。

吉田先生は、吉田の定理というのがあるほどその分野では、世界の先端を走っている中の一人でとてもすごい方なのですがそれだけでなく、自分にきびしく、人にやさしくのとても明るく面倒みもよい方です。研究分野の興味もそうですがその人柄にほれて、みんな集まってできたゼミです。吉田先生は、年こそ自分達とはなれてますが、考え方や肉体的にもとても若く、テニスをするくらいで自分達には、よき理解者なのです。

去年は、先生とゼミの仲間で氷見まで、小旅行にいきました。そのときは、先生と男どうしで語り合いました。夜も一番おそくまでつきあってくれました。でも僕が、今少し残念だと思っていることは、女性が一人しかゼミに、いないことです。去年は4人もいたのですが…、来年にとっても期待しています。

とりあえず、今は男くさいですが、まーそれもよしとしたいところです。

現状としては、数学の研究というより英語の文章を訳して、理解するのが精一杯ですが、みんな卒業するまでには、吉田先生に勉学も人生論も学びひとまわりもふたまわりも大きくなっていることだろうと思います。



理学研究科数学専攻1年

松村 一央

わたしの研究室

電気システム工学Ⅱ講座（エネルギー変換工学講座）

工学研究科電子情報工学専攻1年

湯野康治

僕たちの研究室、電気システム工学Ⅱ講座の紹介をします。この講座では主に電気磁気に関連したエネルギー変換に関する研究と、半導体素子を用いて電力変換を行うパワーエレクトロニクスに関する研究をしています。

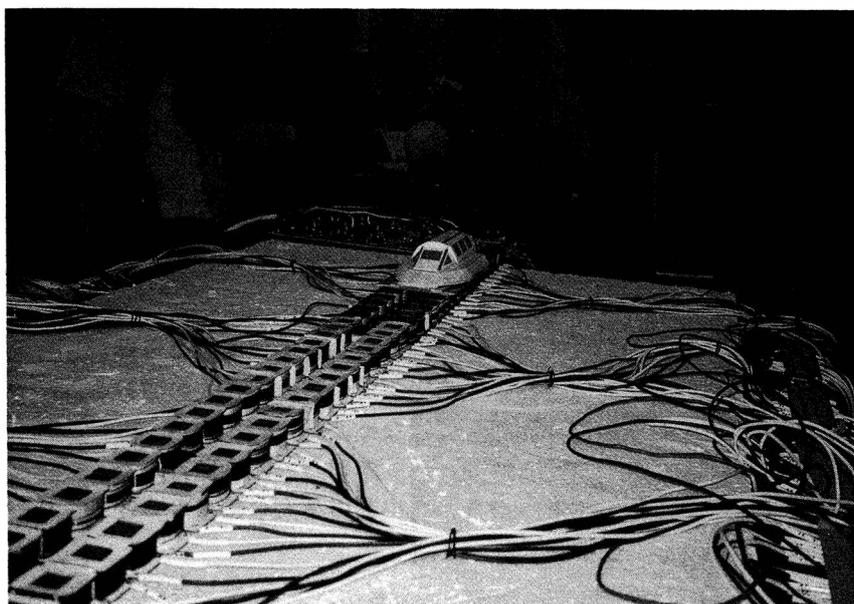
電磁エネルギー変換関係の研究で一番メジャーなものはやはりリニアモータに関する研究です。リニアモータというと、現在、山梨の実験線で走っており、ものすごく速い物を連想するかもしれませんが、この講座で研究しているものはそれとは少し形式が違います。でも、アルミの板がコイルの上を走る、しかも浮いた状態で走るのを見ていて不思議であり、とても興味深いものがあります。毎年9月に行われる夢大学にも展示し、大変人気を集めました。

また、パワーエレクトロニクスに関する研究は、インバータ・コンバータなどの電力変換装置から発生する高調波の予測計算をしています。こちらは主にコンピュータを使って研究しています。パソコンをよく使うということでゲームに夢中になってしまう可能性があります。欲求と自制心の狭間で戦っています。この研究のおかげで、パソコンのこと、特にハード関係も強くなることは間違いないでしょう！

3名の先生方は、優しく親しみやすく、何でも相談に乗ってくれたり、僕たちの遊びなどにも付き合ってくれます。講座内の恒例の行事はコンパぐらいですが、車好きの集まりでサーキットに行ったり、パソコン好きが集まって秋葉原まで買い物に行ったりして、親睦を深めています。

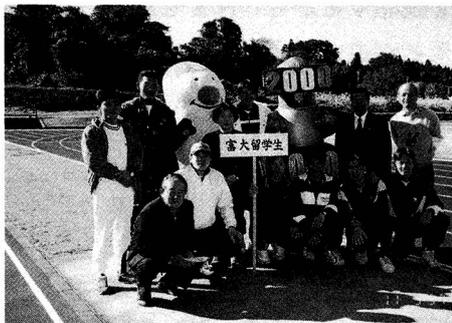
僕たちの講座には、他の人には見られないように実験するという変わった伝統があります。僕も他の人の実験をあまり見たことがありません。（誤解を受けそうだが、1人の方が集中できるためであり、実験はちゃんとしている！）

とにかく、この講座に入って後悔する人はいないと思えるほどソフトな雰囲気です。充実した時間が過ごせる研究室です。



駅伝に参加して

教育学部研究生 符 俊 (マレーシア)
フ サン トゥン



いよいよ今年もあと半月しかないが、振り返って見ると、一年間いろいろな国際交流の活動に参加した。例えば、山田村のいも祭りや、世界のじゃがいも料理の食文化交流、富山市国際交流センター主催の日本文化の紹介の活動、入善町などでの異文化交流の活動にも参加した。又、消防署や警務署などの親善交流にも参加した。

その中で、一番思い出になるのは、今年の11月3日に大沢野町主催の駅伝大会に特別参加で出たこと

である。

そのきっかけは、ある日大沢野の笹津というところに住んでいる日本人の友達——池下さんの家へ遊びに行った時に、町内の駅伝大会があるけど、興味ないかと聞かれたことにある。あの時は大会まであとわずか1か月しかなかったので最初無理だと思った。ところが、私はこの話を大学構内にある留学生相談室の山ノ下さんに相談した。すると、彼女は役場に電話をかけ、詳しいことを聞いてくれた。一方で、留学生の友達に大会に出るように誘った。なんとか人数だけは揃った。メンバーはマレーシアと台湾と韓国からの留学生の組み合わせになった。

大会に出るまで、皆は各々練習をしたり、山ノ下さんは大会用のゼッケンなどを用意したりしてくれた。

当日、すばらしい秋晴れで、みんなは朝からやる気満々で会場へ行った。会場へ着いた時、少し驚いたのは、参加チームは43チームで、若いものばかりではなく、お年の方もたくさんいた。

開会式の後、私達は各スタート地点へ分配され、大会の準備を行った。私は第2走者のスタート地点で待機した。駅伝開始から約25分ぐらいたった。もう他のチームの第一走者はほとんど通過していたのに、うちの第一走者の仲間はまだ姿を現わさない。「大丈夫かなあ？」と不安になった。暫くすると、漸く仲間の姿が現われた。なんと彼の後に最終のパトロールカーが追隨していた。やっと事情が分かってきた。

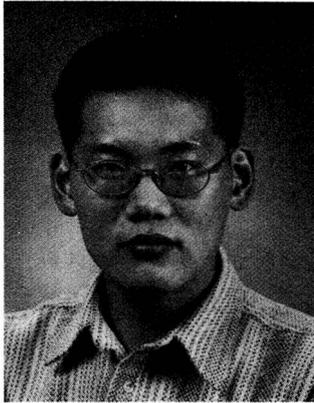
私は彼からタスキをもらい、走り始めた。走る途中にやめたくなるほどつらく感じた。と、その時に、「富大留学生、ガンバレ！」と道のそばに傍観している町民たちの声援があった。その声援はまるで精神の興奮剤のように心を打った。とてもあたたかく感じ、最後まで走らなければならないと思って、ちゃんとタスキを次の仲間の手に渡した。たぶん他の仲間達もそういう気持ちをもって、最後まで完走したのである。

閉会式の後、地元の人と一緒に反省会を行った。とても盛りあがった。

この駅伝のおかげで、より一層国際交流の意義が分かってきた。今も思っている、人と人の間のつながりは「国籍」ではなく、「言葉」でもなく、大切なのはやっぱり「心」というものである、と。これからももっと人との出会いを大事にしたいと思う。

(1997年12月記)





私 の 宝 物

経済学部特別聴講生 朴 世 允 (韓国)
パク セイ ヨン

‘どうしよう。いよいよ本番の日じゃ。うまく行けるかな…。うまく行けるだろう。よし、頑張るぞ!’ いろんな心配が頭の中に流れ込んでいるうちに私は金浦空港 (韓国ソウル空港) の方に向かって走る電車の中に身を乗せていた。

来日して一人暮らしに慣れるのにいろいろ相談にのってくれた我々のお姉さんである山ノ下さん、そして、いつも困ったことがあったらいつでも手を延ばして助けてくれた留学生の友達。いつかは彼らに恩がえしをしなくちゃ! と思っていたところちょうどよい機会がやってきた。夏休み一時帰国する予定であった私に韓国を味わいたいという彼らの希望があって彼らを韓国に招待した。先に韓国に戻り、一週間ぶりに韓国で彼らと再開した時は何か微妙な気分がした。

短い期間、できるだけ豊富な体験をするための彼らの努力は朝早くから夜遅くまで続いた。そして、体は疲れていたが楽しく笑ってくれた彼らの笑顔——一つ、一つ、その瞬間、瞬間が今でも私一人でこっそり思い出したら笑ってしまうほど生き生きと頭に残っている。

私が通っていた大学がある春川に行って春川の名物があるダクガルビ (からみそ付きの鳥肉ガルビ) を“辛い辛い、でも、うまい。”と言いながら全部食べ尽した時。本場のガルビを野菜に包んで辛しみそをたっぷり入れておいしく食べながらいろいろ話した時。そして、温泉に行ってあかすりをしたら肌がスベスベになって皆が美男美女になったと喜んでいて。エバランド (遊園地の名前) に行ってジェットコースターに乗った時“怖い怖い”と言って御守りを両手でキュット握って乗って皆を笑わせた山ノ下さん。韓国の物なら何でも売っている南大門市場に行って“安い、これは安い”と喜びながらメガネを買った蒲さん、符さん。東京の日本語学校の時の友達と4年ぶり韓国で再会できて喜んでいて朱さん。残念ながらその友達はもう結婚して子供もいるおばさんになっていた。男らしく6日間ずっと自分の恋人のそばで世話をしていた陳さん。いろいろな場面が頭の中に残っているが、その中でも彼らが私の家に来て一緒に韓国伝統料理を食べ、高麗人参酒を飲みながら私の家族といろいろ話し合ったのが一番印象に残っている。(写真)

熱い8月の韓国の天気を味わいながら疲れている体を引いて何も文句を言わずに私の案内のまま付いて来た彼らに、私は心から感謝した。

この機会を通じて私は彼らと一層親しくなり、今も深い友情を交わしている。たった一年の短い留学生活であるが私は人生で一番貴重な宝物である友達を得られた。誰にも自慢できる友達である。いつでも彼らに頼りたいし、彼らに頼りたい。そろそろ楽しかった留学生活を終えて韓国に帰らなければならないが、韓国に帰っても彼らとの友情は永遠に続くだろう。

いつでも韓国に遊びにこられ、待とちや。



トピックス

附属図書館施設めぐり (本館)

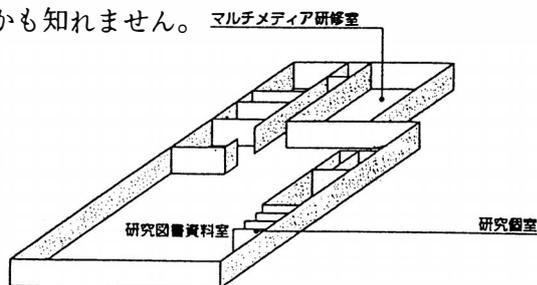
附属図書館情報サービス課長 重里 信一

附属図書館には、本館と工学専門図書室があり、約87万冊の図書資料が収集・整理され、教職員および学生に利用されています。また、全館開架方式を採用していますので、研究室に貸出されているものを除き、図書館の本は自由に手にとってみることができます。

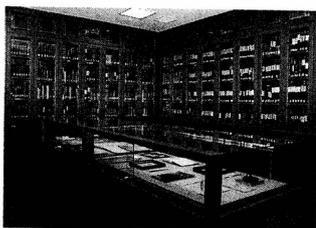
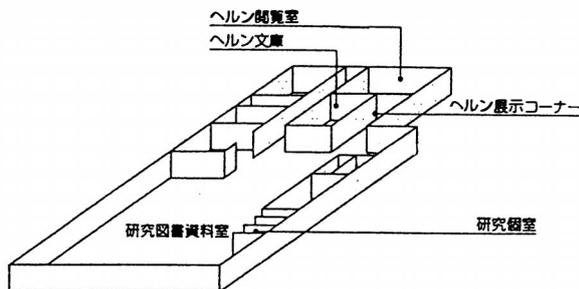
☆マルチメディア研修室（6階）

パソコン30台のほか、ビデオプロジェクターや資料提示装置など各種視聴覚機器を設置し、図書館の利用説明会や研修会、授業などに幅広く利用されています。学生の皆さんには、利用説明会でお目にかかるかも知れません。

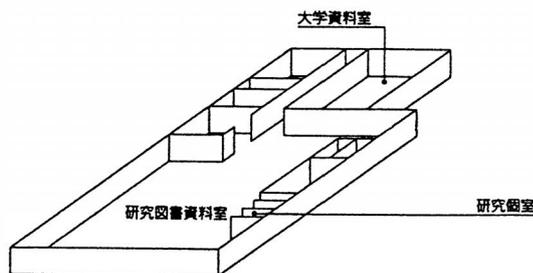
6F



5F

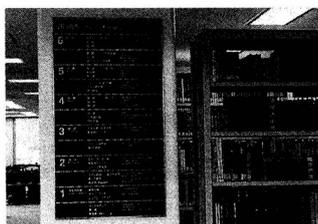


4F



☆ヘルム文庫・ヘルム閲覧室（5階）

ヘルム文庫には、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧蔵書、「神国日本」の手書き原稿1千2百枚を含め洋書2,071冊、和漢書364冊、合計2,435冊を収納しています。ヘルム閲覧室には、本学で収集したハーンに関する研究書など関係文献が配架され、本学教官ばかりではなく全国のハーン研究者に広く利用されています。また、展示コーナーには、ハーンや当文庫に関する展示も行っています。来館の際は、是非このコーナーもご覧ください。



☆研究個室（4～6階に9席）

情報コンセントが設置され、持ち込みのパソコンが利用できます。ワープロもこちらでご利用ください。

☆グループ閲覧室（2階・3階）

グループ閲覧室には会議テーブルと椅子8席が備えてあり、小グループでの研究・学習に利用できます。1回につき3時間以内で利用の申込を受付けていますので、サービスカウンターにお申し出ください。

☆新着雑誌コーナー（2階・3階）

新着雑誌を展示・閲覧するスペースでゆったりとしたソファを配置したブラウジングコーナーを併設しています。現在、約300点の新着の雑誌を配架しています。また、2階には、理工系の雑誌バックナンバーを収納した電動式集密書架が設置されています。なお、3階は、人文・社会系の雑誌フロアとして整備中です。

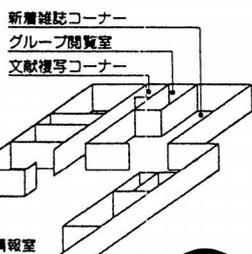
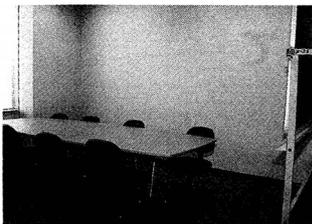
☆ロビー（2階）

ゆったりとしたソファや壁画、彫刻などが配置され、一時の休息をとるゆとりの空間として、また、新聞閲覧コーナーとして利用できます。

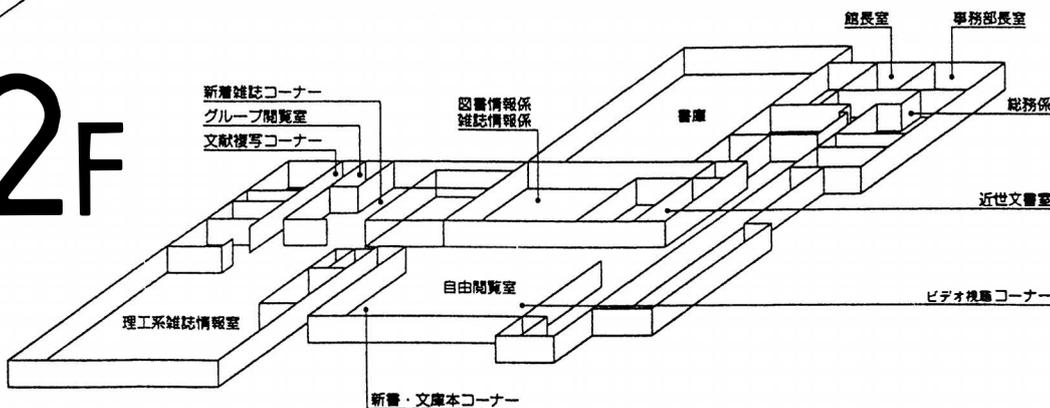
☆ビデオ視聴コーナー（2階）

自由閲覧室の一角にビデオなどを視聴するコーナーとして、4人用ブース1台、1人用ブース4台が設置されています。利用するときは、ビデオソフトの書架から希望のビデオを選び、その空ケースを持参の上サービスカウンターにお申し出ください。

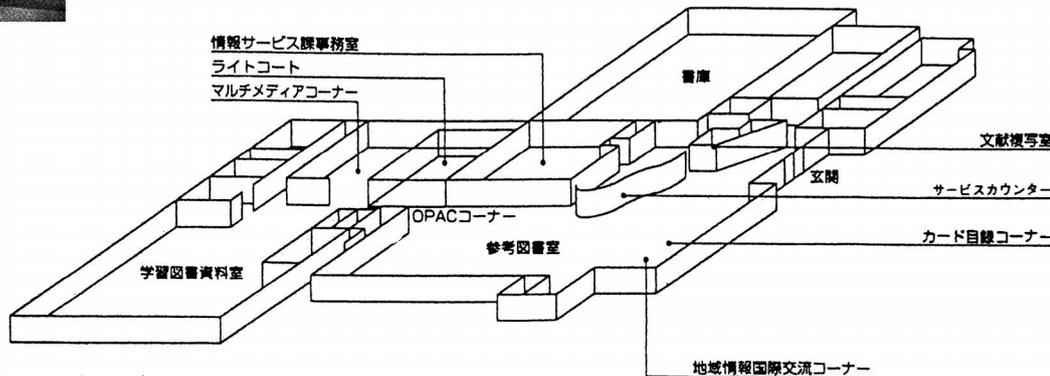
3F



2F



1F

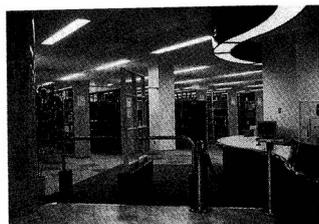


☆マルチメディアコーナー（1階）

インターネット情報探索端末や雑誌論文・新聞記事が検索できる CD-ROM 検索端末を使って利用者自身で各種情報を検索していただくコーナーです。自国のホットな情報が得られると留学生には、人気のスポットです。

☆OPACコーナー（1階）

図書や雑誌が図書館に所蔵されているか否かを OPAC (Online Public Access Catalog) 端末を使って検索することができます。



☆地域情報・国際交流コーナー（1階）

富山市を始め県内各地区の住宅地図、富山県大百科事典など地域に関する資料、日本語学習ビデオ、中国の新聞など留学生向け資料を配置しており、留学生との交流の場となっています。

☆サービスカウンター（1階）

図書館サービスの窓口にあたるところで、図書の貸出・返却、学外者の利用受付、施設・資料の利用案内、文献複写の受付、文献の所在調査などのレファレンス・サービスも行っています。わからないことはお気軽にご相談ください。



環日本海地域の学術研究の拠点をめざして

富山大学環日本海地域研究センター長 中 藤 康 俊

去る10月1日、富山大学に環日本海地域研究センターが設立された。このセンターは経済学部にあった日本海経済研究所を基礎として全学の共同利用施設としてつくられたものである。

周知のように、1980年代の後半から東西冷戦構造が次第に崩れ、日本海をはさんで対岸諸国との交流が活発になってきた。今まで、日本海は「対立と緊張」の海であったが、「平和と友好」の海に変わり、まさに「環日本海時代」の到来ともいうべき、新しい時代を迎えるに至った。日本と対岸のロシア極東地方、韓国、中国北東地方とは経済、文化、スポーツ、教育などあらゆる分野で交流が進んでおり、北朝鮮とも少しずつ交流が拡大しつつある。

しかし、朝鮮半島では38度線を境にして同じ民族が南北に分断されているし、日本とロシアの間では領土問題が未解決のままである。また、この地域に対する日本の戦後処理はまだ不十分であり、依然として過去の負の遺産を引きずっている。われわれは環日本海交流を活発にするためには過去の歴史に対して反省と理解が不可欠である。そればかりではない。この地域の民族、文化、社会体制、経済の発展段階など種々の面で異なっている。それだけに、異質なものを認めつつお互いに交流することは難しい。しかし、経済的にはこの地域で日本が圧倒的に高い位置を占めているだけに、日本の果たす役割は大きい。

昭和33年に富山大学経済学部を設置された日本海経済研究所は当初は北陸経済研究所と呼ばれていたように、まさに北陸地域の経済、経営、社会、

法律などの分野を調査・研究する研究機関であったが、日本と対岸諸国との交流が活発になるにつれ、対象地域も北陸だけにとどまらず広く環日本海地域全体に及ぶようになった。それと同時に研究業績も次第に多くなり、過去10年ほどは年間4種類の研究成果を発表してきた。日本海経済研究所は文部省令に基づく研究所ではなかったが、省令の研究所と優るとも劣らないくらいの研究成果をあげてきたと自負している。この度、われわれが環日本海地域研究センターを設立したのは日本海経済研究所の実績を基礎として研究分野をこれまでの経済、経営等の分野だけでなく、文化、歴史、自然、技術などにも広げ、環日本海地域がかかえる種々の問題に学部の枠を越えて全学的に取り組むためである。そして富山大学の教育・研究並びに環日本海地域の発展に資することを目的として設立されたのである。おそらく、このようなセンターが設立されたのはわが国ではじめてのことであろう。それだけに、経済学部はもとより全学の教職員の協力に感謝する次第である。

われわれはこのセンターを中心にして調査・研究を推進し、国内はもとより対岸諸国とのネットワークをつくることによって、富山大学を環日本海地域の学術研究の拠点とすることを目指している。このセンターこそは、富山大学を発展させ、存在意義を国内はもとより世界にアピールする一つの道ではなかろうか。しかしながら、目標は大きい、その道のりは「茨の道」であろう。決して安易なことではない。私としては学内各位のご支援とご協力をお願いする次第である。



平成9年度前期・後期授業料免除について

平成9年度の前期及び後期授業料免除者が次のとおり決定しました。

なお、授業料及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課又は各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

授業料免除実施状況

区 分	前 期			後 期			
	学 部	大学院	計	学 部	大学院	計	
出 願 者	3 9 8	1 2 7	5 2 5	3 5 4	1 0 3	4 5 7	
免 除 者	全額免除	2 8 1	8 2	3 6 3	2 8 3	8 0	3 6 3
	半額免除	5 9	1 7	7 6	5 4	1 5	6 9
不 許 可 者	5 8	2 8	8 6	1 7	8	2 5	



保健管理センターだより

エイズは蔓延しつつある

保健管理センター所長 中村 剛

数年前、日本全国でエイズ教育熱が沸騰しました。「猫も杓子も」といった、あまり品のよくない副詞句がありますが、そんな文句がびったりするような熱気が、マスコミや教育関係者の間に横溢していたのです。こういう一時的な狂騒状態は、その目的がじわじわと蔓延する難治性疾患の予防であるだけに、はたしてこれでよいのか、という感じがしないでもありませんでした。熱しやすく冷めやすいのは最悪の展開です、筆者の周囲にもそんな予感をもつ人びとがたくさんいました。

本学のばあい、この予感は残念ながら的中したようです。エイズ講演会に参加した学生は、昨年度実績でたったの2人でした。他方で、H I Vのほうは妥協を許さぬ、クールな生命活動を続けています。

厚生省エイズ動向委員会報告によりますと、日本においてもH I V感染は確実に広がっています。エイズについての正しい知識を持ち、適切な予防行動をとることがもとめられています。いっぽうで、抗H I V薬の開発は着実にすすんでおり、早期治療の効果はいちじるしく向上しています。し

たがって、早期発見のために積極的に検査を受けることは、疫学的な面からみても、個人的な面からみても大きな意味があります。

1997年10月末までに、わが国で報告されたエイズ患者の累計数は1,705人です。その感染原因別に内訳をみますと、異性間の性的接触443人、同性間の性的接触260人、静注薬物濫用11人、母子感染9人、凝固因子製剤689人、その他24人、不明269人でした。

同じく、累計H I V感染者数は4,232人です。その内訳をみますと、異性間の性的接触1,185人、同性間の性的接触550人、静注薬物濫用14人、母子感染19人、凝固因子製剤1,808人、その他48人、不明608人でした。

性別で見ますと、男性患者1,563人、女性患者は142人です。感染者は男性が3,166人、女性が1,066人と、患者、感染者とも男性が圧倒的に多数を占めています。

国籍別では、日本人患者は1,422人、外国人患者は283人、感染者は日本人が3,064人、外国人が1,168人です。

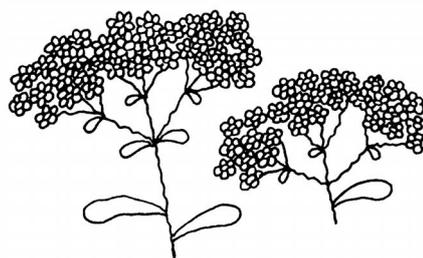


表1. エイズ患者の届け出状況

(単位：人)

	男 性	女 性	合 計
異性間の性的接触	366 (72)	77 (38)	443 (110)
同性間の性的接触 ¹⁾	260 (37)	0 (0)	260 (37)
静注薬物濫用	11 (7)	0 (0)	11 (7)
母子感染	6 (1)	3 (1)	9 (2)
凝固因子製剤 ²⁾	682 (-)	7 (-)	689 (-)
その他	16 (5)	8 (2)	24 (7)
不 明	222 (87)	47 (33)	269 (120)
合 計	1,563 (206)	142 (74)	1,705 (283)

()内は外国人再掲数

注：1) 男性両性愛者(22人)を含む。

2) 1997年5月末現在における「発症予防・治療に間有研究班」報告による。

なお、「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」施行後(平成元年2月17日以降)、凝固因子製剤が原因とされている者は、報告の対象から除外されている。

表2. HIV感染者の届け出状況

(単位：人)

	男 性	女 性	合 計
異性間の性的接触	543 (122)	642 (463)	1,185 (585)
同性間の性的接触 ³⁾	550 (76)	0 (0)	550 (76)
静注薬物濫用	14 (10)	0 (0)	14 (10)
母子感染	8 (1)	11 (6)	19 (7)
凝固因子製剤 ⁴⁾	1,791 (-)	17 (-)	1,808 (-) ⁵⁾
その他	26 (10)	22 (4)	48 (14)
不 明	234 (121)	374 (355)	608 (476)
合 計	3,166 (340)	1,066 (828)	4,232 (1,168)

()内は外国人再掲数

注：3) 男性両性愛者(27人)を含む。

4) 1997年5月末現在における「発症予防・治療に関する研究班」報告による。

なお、「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」施行後(平成元年2月17日以降)、凝固因子製剤が原因とされている者は、報告の対象から除外されている。

5) 患者689人を含む。

図1. 15-49歳女性のHIV感染率（推定）

地域	女性10万中の感染者数 <i>en</i>)	<i>Estin</i> 感染者数（推定）
Sub-Saharan Africa	 2,500	> 2,500,000
South America	 200	200,000
North America	 140	100,000
Western Europe	 70	60,000
Australia and New Zealand	 70	< 4,000
South Asia	 30	200,000
North Africa	 20	< 10,000
Eastern Europe	 < 5	< 4,000

Chin J: Current and future dimensions of the HIV/AIDS pandemic in women and children. Lancet 336:226. 1990. より引用。



◆◆◆◆◆ 学園ニュース編集委員 ◆◆◆◆◆

学生部長	能登谷 久 公	経済学部	林 健 治
人文学部	高 安 和 子	理 学 部	川 崎 一 朗
〃	中 村 靖 子	〃	小 松 美英子
教育学部	呉 羽 長 (コーディネータ)	工 学 部	小 原 治 樹
〃	原 田 嘉 昭 (コーディネータ)	〃	小 野 慎

